

まえがき

本報告書は、広島大学平和科学研究センターが2001年度から、2003年度にかけて行った研究プロジェクト「紛争と人間の安全保障」の成果の一部である。

本プロジェクトは、1994年の『人間開発報告』が提唱して以来、国際社会のキーワードになった感のある「人間の安全保障」なる概念を理論と実践の両面から検討することを目的とした。しかし、『人間開発報告』においては、貧困や、食糧、医療、文化の問題をも人間の安全保障の課題と位置づけられているのに対し、われらのプロジェクトにおいては、武力紛争のもたらす脅威を重視した。武力紛争とそれがもたらす破壊とが安全保障にとって最も重大な脅威のひとつであると認識したからである。

プロジェクトは、後に掲げるシンポジウムや研究会を中心に遂行した。本報告書はこのような研究活動にもとづき、その成果の一部をまとめたものである。シンポジウムと研究会の講師の方々、参加者の方々にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

「人間の安全保障」をめぐる議論は、理論家の間でも実践家の間でもいまだに続いている。例えば、2003年には、緒方貞子とアマルティア・センを共同議長とする人間の安全保障委員会最終報告書が提出されたばかりである。本報告書が、「人間の安全保障」概念の理解の一助となれば、望外の幸せである。

平成16年2月

広島大学平和科学研究センター長

中山 修一